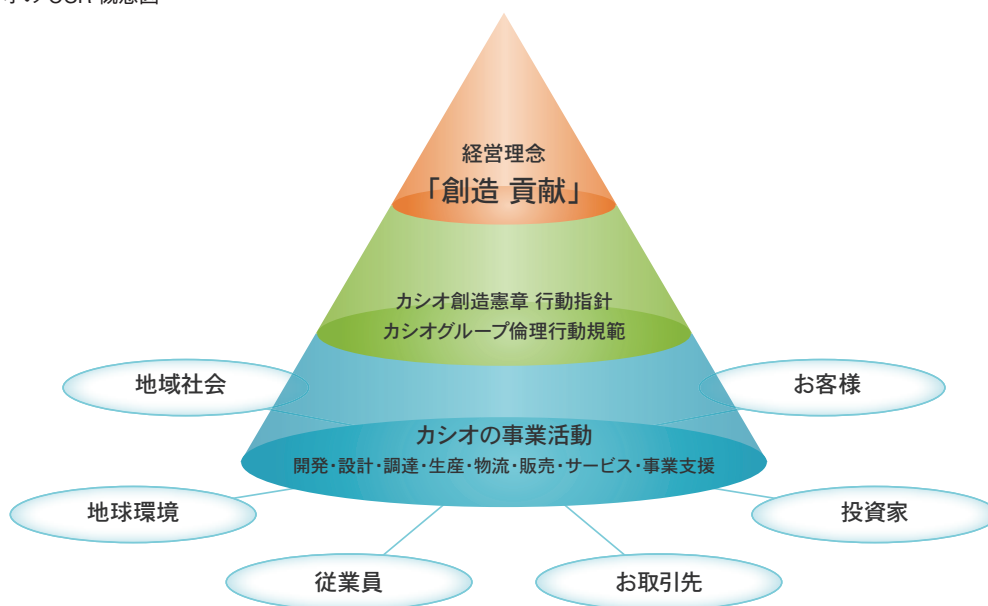


経営理念とカシオの CSR

カシオの CSR は、「カシオ創造憲章」とこれを具体化した「行動指針」を実践し、“事業活動を通じて経営理念を実現する事”です。

カシオの CSR の考え方

■カシオの CSR 概念図



カシオは1957年の創業以来、「創造 貢献」を不変の経営理念として、多くの先達たちがその実現に向けて努力してきました。

カシオの経営理念は、“これまで世の中になかったものを創造する事によって新たな価値を生み出し、人々の暮らしを豊かにする事を通じて、社会に貢献する”という事を意味しています。すなわち“事業を通じた社会貢献”を明確にうたっており、この考えは現在の CSR の概念に通じています。

さらに、2003年には、この経営理念を常に従業員が意識して実践するために、カシオで仕事を進めるすべての人の誓いとして、「カシオ創造憲章行動指針」を定めました。ここには CSR の3つの側面（経済・環境・社会）とコンプライアンスに対する考え方が含まれています。

カシオ創造憲章 行動指針

第1章 私たちは、独創性を大切にし、普遍性のある必要を創造^{*}します。

1. 全てに対し、“普遍性のある必要”を追究する
2. 全てに対し、“あるべき姿”を描く
3. 全てに対し、“挑戦する意志”を貫く

第2章 私たちは、社会に役立ち、人々に喜びと感動を提供します。

1. 人々に、“無限の感動”を提供する
2. 人々と、“豊かな生活”をわかちあう
3. 人々と、“尊敬と信頼”の絆（きずな）を育む

第3章 私たちは、プロフェッショナルとして、常に誠実で責任ある言動を貫きます。

1. 全ての言動に対し、“規則・法律に基づき”責任ある態度を貫く
2. 各々の役割に対し、“結果・成果”の責任を執る
3. 全ての仕事に対し、“毎日改善”に努める

^{*} 普遍性のある必要を創造：誰にとっても必要でありながら、まだ世の中になかったものを、新たに生み出す事。これは製品開発のみならず、すべての業務においてカシオが追求すべきものです。

また、2008年には「カシオグループ倫理行動規範」を定め、「カシオ創造憲章 行動指針」とともに、カシオの全従業員が遵守すべき指針と規範を明確にしました。

そして、これを徹底するために、「カシオ創造憲章 行動指針」については、役員および部門長は毎年署名し、自ら遵守する事並びに所属員に周知徹底する事を誓約しています。また、全従業員もこれを記載したカードに署名の上、常時携行しています。

この他、「CASIO STYLE」と題して、経営理念や「カシオ創造憲章 行動指針」に関する、創業者である4人兄弟の逸話や、例えを用いたわかりやすい訓話などを月1回のペースでWebサイト上に連載し、グループ全従業員への理解促進と定着を図っています。

さらに、国内の全グループ会社の従業員を対象に、「カシオ創造憲章 行動指針」、「カシオグループ倫理行動規範」、「公益通報ホットライン」に関する総合的なアンケートを1年おきに実施し、それぞれの定着度合などを分析しています。今回は2010年度に実施する予定です。

CASIO Style

第 72 回

Message

読：相模原、会長、社長、副社長からのメッセージです

梶尾和雄社長(24)

■ 試練は人を成長させる

メーカーである当社は、新しいものを生み出さなければ成長しません。まして、経済全体が縮小している今、新しい市場を創造しなければ、会社の存在さえ危うくなります。いま、当社が生き残るためには「0→1」を生み出すことが絶対に必要です。

しかし「0→1」が、ひとりで生まれてくるとはなりません。必死になって自分の全力を出し尽して、それでも、できるという確信は得られません。それほど難しいことなのです。まして「時間をかけてやろう」とか「2年後には実現しよう」という悠長な姿勢では、「とりあえず現状の延長線上でやろう」と言っているのと同じです。「とりあえず」では絶対に「0→1」は実現できません。どんなに能力がある人でも、自分の限界に挑み、いまずぐべしを尽くさなければ、新しいものは生み出せないのです。

いま中国や台湾、韓国の企業が躍進している原動力は、かつての日本と同じ「ハングリー精神」です。日本は豊かになり、昔より優雅な精神状態で暮らせるようになりました。それは良いことですが、彼らとグローバル市場で競争している今、ビジネスで「ハングリー精神」を持たなければ負けるだけです。今、この逆境を絶対にねえ逆さうという気持ちを持ち、競争に臨んでいただきたい、と思います。

今の厳しい状況は、みなさんが成長するための試練です。試練は人を成長させます。ただし成長できるのはこれに試練だと考えて、正面からの向き合っている人だけです。自らぶつかりたい人、人は、試練を自分の血肉として取り込み、ノウハウを蓄積することができます。普段から試練を見つかに、人は、人の何倍も早く成長しますが、試練を受け止める気持ちがない人は、何も身に付きません。まして今は、そのような個人差を認めている状況ではなく、本当に全員が試練を受けている時です。社員のみならず、それを強いてくれているのでしょうか？

CASIO STYLE